

会報

国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

第20号
2012年1月16日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局
千葉市中央区要町2-8 DC会館内
TEL 043-222-7207
nationwidemovement@yahoo.co.jp

日本労働運動の再生かけ 2・15集会に結集しよう

国鉄闘争の炎を断じて消してはならない

誰も責任を取らない死者

107名の福知山線事故

手嶋浩一 (元国労九州本部書記長)

神戸地裁は1月11日、JR福

知山線脱線転覆事故で業務上過失致死傷罪に問われていたJR西日本の山崎正夫・前社長に対して無罪を言い渡しました。司法の反動化が叫ばれて久しい今日、裁判所の判決に期待はしていなかったと言ふものの、やはりこの判決には驚きと憤りを覚えます。甚大な被害を被った遺族は、迷わず即座に控訴を求められたようですが、当然のことであり、断固支持します。

国鉄分割・民営化がもたらした、労働組合つぶし(国労)のための国鉄・JRによる残忍な「日勤教育」なるみせしめ労務管理こそが事故の最大の原因であるにもかかわらず、裁判所は設備の安全管理に論点をすり替え、ねじ曲げているのです。この一点を見ても国鉄闘争の炎は消してはならないのです。

国労4・9和解は国労の御用組合化宣言だ！

2010年4月9日、雇用ゼロ、解決金平均2200万円、「地獄の沙汰も金次第か」の汚名を背に、国労闘争団員は、苦渋の選択を迫られ和解しました。私は労働組合運動に和解は付き物で、決して悪いことでは

ないと思います。

しかし、和解の前提は、和解により一層の組合員間の信頼が深まり、団結が強まり、次への闘いの展望が確保されているのではありません。

だが、今度のような国労の和解は、屈服和解の何ものでもなく、断じて認められません。そもそも和解書に「二度と争わない」などの闘争放棄の文言を書き残すこと自体が、屈服なのであり、名実ともに国労の御用組



手嶋浩一

一貫して闘いを放棄してきた国労の幹部たち！



国労の歴史上、全国大会で本部方針が否決されることはありませんが、非主流派、反主流派幹部は、本気で方針に反対することはなく、自らのメンツを保つため、反対の意思表示をし、採決で決することが、恒例化されていた国労の全国大会でした。

この修善寺大会も、まさか本部方針が否決されるとは、非主流・反主流派幹部も思ってもいなかったのが真実であり、従って、本気で分割・民営化に向け闘う意志などなかったのです。ハプニングが起こって、本部幹部になっただけなのです。

JR当局にすりより、「JRに好かれる国労本部へ」分裂した国労本部は、闘えばJR当局が見向きもしてくれないし、解決の糸口さえも見いだせないとの認識に立脚し、従って、解雇問題を解決するために、JR当局にすりより、JR当局に好かれなければならぬと言いつけるのです。

3党合意を巡って、国労の全国大会は、圧倒的多くの国労組合員が、本部方針に反対したため、国労本部は、警察機動隊の出勤を要請し、機動隊に守られての異様な大会となり、国労労働組合事務所の無条件返還、民営化によるストライキ権の掌握も労使協定締結で自ら放棄、鉄筋コンクリート8階建の国労本部事務所を、スト権ストによる20億2億損害賠償と取り引きして喪失してしまつたのです。

私は当時、国労九州本部の書記長をしていましたが、スト権放棄の労使協定締結はしない、組合事務所は返還しない、国労本部事務所は取引をせず、東大安田講堂の闘争にならって、毎日全国から500名の組合員を籠城させて死守する闘いを、本部に進言しましたが受け入れられず、ついには国労から私は追放されてしまいました。

警察権力に組合員を売り渡し、闘争団員を切り捨てる国労の卑劣性

3党合意を巡って、国労の全国大会は、圧倒的多くの国労組合員が、本部方針に反対したため、国労本部は、警察機動隊の出勤を要請し、機動隊に守られての異様な大会となり、国労労働組合事務所の無条件返還、民営化によるストライキ権の掌握も労使協定締結で自ら放棄、鉄筋コンクリート8階建の国労本部事務所を、スト権ストによる20億2億損害賠償と取り引きして喪失してしまつたのです。

国鉄分割・民営化で不当解雇から25年2・15労働者集会
2012年2月15日(水) 18時30分/すみだ産業会館
(東京都墨田区江東橋3-9-10 錦糸町駅前)
(呼びかけ) 国鉄分割・民営化に反対し、1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動

外注化阻止へ時限スト

1・10 京葉車両センター

動労千葉は1月10日、京葉車両センター構内業務外注化に向けた訓練実施強行に対して、京葉車両センター組合員を対象とした始業時から1時間の時限ストライキを闘った。

千葉支社が進めている京葉車両センターの構内業務1日勤の外注化は、JRでの要員削減数が2人にもかかわらず、担当3人を指定して訓練を行おうと

している。会社にとってみれば要員増で何の意味もない。

しかし、それでも訓練を強行して1月27日に業務委託実施を行おうとするのは、4月の全面外注化の実績をつくるためだ。

早朝から京葉支社の組合員や、動労千葉を支援する会など約70人が京葉車両センター前に結集し、千葉支社へ怒りのシュプレヒコールをたたきつけ、抗議闘争を闘いぬいた。

構内業務を行っている横尾隆之君は「自分らの仕事を取られることを分りながら、なぜ訓練に協力しなければならぬのか。一緒に闘おう。仕事がなくなつてからじゃ遅い」と訴えた。

幕張支店の山田支部長は、門前に並ぶ管理者らに「業務外注化で自分たちの子や孫の仕事もなくなる。お前たちが未来を奪つてくると」と痛烈に突撃した。

外注化は現場から闘えば絶対に阻止できる。動労千葉の闘いを全国へ広げよう。

く、国労の死を垣間見る寂しくも悲しい限りです。

かけ声だけではなく、実践的に職場に闘う労働組合を

東京電力の福島原発事故とJRの福知山線脱線転覆事故のように、銭儲けのためならば、人命などどうでもいいと言つてはばからぬ、新自由主義推進者どもに労働国民の怒りと憤りを結集して、たたきつけようではありませんか。

沖繩の普天間基地移設反対、石川一雄さん狭山差別事件を始めとする多くの冤罪事件と司法の反動化、そして、日の丸・君が代による教育の反動化などなどに対して、連帯し、連動して闘いの輪を拡大して行かねばならないと思つています。

国鉄闘争全国運動も闘おう」という掛け声と、年に二、三回の集会にとどまっていたのは、国鉄闘争の飛躍と発展は望めません。全国運動に結集する呼びかけ人を始めとする会員一人ひとりが、自らの居住地域及び勤務する職場で、あるいは既に退職された皆さんは、後輩等を通じて、闘う労働組合の結成を目指していきましょう。

そして、その運動の経過・成果を持ち寄って、小集会、話し合いの場を、全国各地に燎原の火のごとく、組織していくことを呼びかけます。

解雇撤回・非正規職撤廃！

12・22 鈴コン闘争総決起集会報告

昨年末に行われた12・22「解雇撤回・非正規職撤廃 鈴コン闘争総決起集会」は、合同・一般労組全国協を先頭に全国から340人が参加しました。

「鈴コン闘争にすべての労働者の未来がかかっている。全国・一般労組全国協のもとで共に闘おう」という開会あいさつで集会は始まりました。全日建運輸連帯労組関西生コン支部から連帯アピールが送られ、動労千葉の繁沢副委員長から「非正規職撤廃をともに闘う」とあいさつが送られました。

力強い提起は参加者全体をひとつにしました。続いて組合員からの発言がありました。「職場で悔し涙を流す仲間を先頭にたち、起ちあがる仲間を信じ、必ず職場に戻る！」(内尾分会長)。

「今ここで決起しなければ、全国の非正規労働者のために、私たちは先頭で闘う所存です」(鈴木善弘さん)。

「分会の旗は残った俺たちが守る」(佐藤靖浩さん)。「全国の仲間からもらった檄布を宝物にする」(佐藤重夫さん)。

それぞれが力強いアピールでした。全国からは福島合同労組をは

昨年12月23日、羽越線事故弾劾闘争が闘われた。05年12月25日、羽越線特急「いなほ14号」転覆脱線事故で、5名の乗客が犠牲になってから6年が経過した。JR体制―相談役・松田社長・清野、新潟支社長・高木らは、一切の責任を強風と現場労働者になすりつけて、吸血鬼のごとく営利追求に走っている。労働者を何だと思っているのか。絶対に許せない。

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ



現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ



田谷地区労働顧問の花輪不二男さんから呼びかけられました。鈴コン闘争の勝利性が述べられました。最後に支援の訴えを世

田谷地区労働顧問の花輪不二男さんから呼びかけられました。鈴コン闘争の勝利性が述べられました。最後に支援の訴えを世

立ち向かい、尊厳を取り戻し、社会を奪い返し動かす力を、職場を拠点にする力をつけていく

闘争です。国鉄闘争を軸に自治体、郵政、教労の四大産別がその先頭に立とう。鈴コン闘争に

絶対勝利しよう! (動労千葉を支援する会・東京西部 奈良 桃子)

職場に全国運動を

神奈川の総括と教訓

国鉄闘争全国運動・神奈川支援する会を結成しました。それは昨年、1年間の目標を2000口、2倍化としましたが、会員・口数の拡大は微増で11・6労働者集会と同じ状況でした。課題はもちろん山積みです。しかし昨年の闘いを通して二つの核心をつかんだと思います。一つは、全国運動を拡大・発展させる道が、動労千葉を支援する会、ともに闘う国労の会をはじめ国鉄闘争全国運動を、何より職場(支部・分会など)に作ることにあったということです。

職場での支援する会の結成は明確に、体制内に対するランク&ファイルの運動そのもので活動家づくり、組織拡大に直結しています。ある組合では会を結成しただけでその存在が体制内幹部連中に知れ渡ったそうです。

だから攻撃も凶暴です。全通では職場に支援する会を結成した途端に、これまで35年同じ

現場労働者はよく見ています。勝てるかどうか。「過激派」かどうかではないのです。この中で動労千葉の闘いを貪欲に学びつくすことも重要だと改めて思いました。

12・23新潟 羽越線事故を弾劾

現場に責任転嫁するJR許さぬ

現場に責任転嫁するJR許さぬ